

「献血推進2025」の中間評価について

厚生労働省医薬局血液対策課

1. 概要

将来の血液製剤の安定供給体制を確保するため、令和3年度（2021年度）から当初は令和7年度（2025年度）まで、その後令和10年度（2028年度）まで（※）を目標期間とする新たな中期目標「献血推進2025」を設定し、献血の推進を図っていくこととしている。

今般、これまでの実績を確認して中期目標の中間評価を行い、必要に応じて中期目標を見直すこととする。

※ 「血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るための基本的な方針（基本方針）」（令和6年3月29日厚生労働省告示第153号）の対象期間（2024年度から2028年度）と、献血の中期目標期間を合わせることにより、基本方針に基づき国、日本赤十字社、都道府県、市町村等が一体となって献血を推進することが出来るようにするため、「献血推進2025」の目標期間（2021年度から2025年度）を、2028年度まで延長した。

＜参考＞基本方針と中期目標の関係

血液法基本方針	2003～2008	2008～2013	2013～2019	<u>2019～2023</u>	<u>2024～2028</u>
献血推進の中期目標	2005～2009	2010～2014	2015～2020	<u>2021～2025</u>	<u>～2028（延長）</u>
	献血構造改革	献血推進2014	献血推進2020	<u>献血推進2025</u>	→ <u>献血推進2028</u>

2. 「献血推進2025」の令和7年度までの実績

項目	目標の定義	令和7年度 目標値 (2025年度)	令和7年度 実績値 (2025年度)	令和6年度 実績値 (2024年度)	令和5年度 実績値 (2023年度)
若年層の献血者 数の増加	若年層(16歳～39歳)の人口に対する献血者数の割合(献血率)	6.7%	5.1%	5.2%	5.2%
	(参考)10代	6.6%	4.8%	4.7%	4.7%
	(参考)20代	6.8%	5.1%	5.2%	5.3%
	(参考)30代	6.6%	5.2%	5.2%	5.3%

安定的な献血の確保	献血推進活動に協力いただける企業・団体の数	70,000 社	69,313 社	67,152 社	65,939 社
複数回献血の推進	年に2回以上献血された方(複数回献血者)の人数	1,200,000 人	1,066,355 人	1,061,132 人	1,054,111 人
献血 Web サービスの利用の推進	献血 Web 会員サービス「ラブラッド」の登録者の人数	5,000,000 人	4,789,272 人	4,193,293 人	3,759,780 人

- (1) 若年層(16歳~39歳)の人口に対する献血者数の割合(献血率)については、令和7年度は対前年度で0.1ポイント低下した。参考値の10代から30代の献血率については、10代の令和7年度実績は対前年度0.1ポイント増加したが20代は対前年度0.1ポイント低下した。将来にわたり安定的に血液を確保するためには、引き続き、若年層への働きかけを行っていく必要がある。
- (2) 献血推進活動に協力いただける企業・団体の数(献血サポーター)については、着実に数字を伸ばしてきたが、目標の70,000社にはわずかに届いていない。引き続き、各企業・団体に働きかけを行っていく必要がある。
- (3) 年に2回以上献血された方(複数回献血者数)については、毎年度人数は伸びているが目標の1,200,000人には届いていない。血液製剤の安定供給のために、引き続き、複数回献血者の確保に取り組んでいく必要がある。
- (4) 献血 Web 会員サービス「ラブラッド」の登録者については、着実に登録者数を増やしているが、目標の5,000,000人には届いていない。引き続き、ラブラッドへの登録者を増やし、継続的な献血への協力を呼びかける必要がある。

3. 現状の把握と今後の方向性

(1) 現状

・献血推進2025の各目標値については、令和7年度(2025年度)終了時点において、横ばいまたは少し低下した項目や順調に数字を伸ばしている項目があるが、いずれも目標値には到達していない状況である。

・一方で、輸血用血液製剤及び血漿分画製剤メーカー向けの原料血漿を滞りなく供給するため

に必要な献血者数は確保できている。

(2) 今後の方向性

・毎年度の各項目の達成状況を確認しつつ、昨年度から開始した献血普及啓発ボランティアによる活動発表会を引き続き実施するとともに、採血基準の緩和などを見直すほか、献血ルーム新設等の際にキッズスペースの設置や、医療現場で輸血を行っている医師と高校生の対話形式での献血セミナー動画を作成するなどして献血推進の取組を行い、目標達成に向けて努力したい。

・また、今後の免疫グロブリン製剤の需要・供給動向の変化なども踏まえつつ、引き続き中長期的な需要予測を継続して行い、必要に応じて中期目標を見直すことについても検討していきたい。